

- 調査対象 テレワーク導入企業の経営者
- 調査方法 インターネット調査 ・有効回答数 323人
- 調査時期 2020年8月13日～8月18日

ワーケーション制度の導入に興味のある経営者は50.4%

日本旅行、We'll-Being JAPAN およびあしたのチームの3社は共同で、会社員（有効回答数332人）、経営者（同323人）、自治体職員（同330人）を対象にワーケーションに関する調査を実施した。今回は経営者を対象にした調査結果から、その取り組みの実態についてみてみたい。

ワーケーション制度の導入

非常に興味がある…… 20.4%
少し興味がある…… 30.0%

テレワーク導入企業の経営者に対し、観光地やリゾート地での休暇中に、仕事に関連する業務や会議を行なうワーケーションについて尋ねたところ、「頻繁にある」が17.6%、「何度かある」は30.0%で、実践経験のある経営者は47.6%となった。

また、自社にワーケーション制度を導入することについては、「非常に興味がある」20.4%、「少し興味がある」30.0%となっており、約半数の経営者が自社での導入に興味を示している。

ちなみに、「既に自社で導入している」と回答した経営者は2.0%となっている。

評価制度や管理方法が課題

ワーケーション制度導入に興味があると回答した経営者に、導入

する際の課題について尋ねたところ、「休暇中の仕事の適切な評価が難しい」71.4%、「休暇中の業務の勤怠管理が難しい」、「仕事環境の整備が難しい」がそれぞれ70.5%となった。

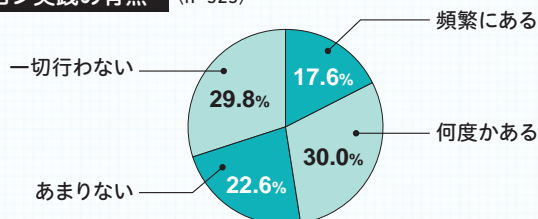
“休暇中の業務”をいかに評価し、管理するかは、経営者の価値観によるところが大きい。働き方や仕事の仕方に対して、どこに価

値を置くかによって評価制度や管理方法も定まってくる。

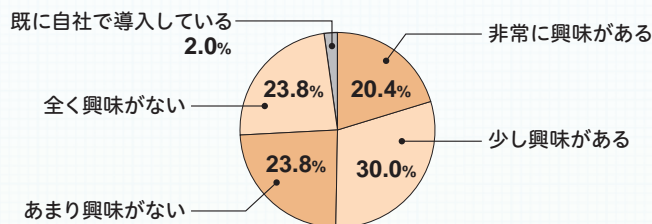
本調査では、すでに半数近くの経営者がワーケーションを実践しているという。こうした経営者たちの経験や知見が、働き方に対する新しい価値観を形成していくことになる。

（インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊）

ワーケーション実践の有無 (n=323)



ワーケーション制度導入に対する興味 (n=323)



ワーケーション制度導入にあたっての課題（複数回答） (n=105)

